

平成21年6月18日

平成21年度 鉄道設備投資計画について

～ 淀駅付近の立体交差化の推進やホーム点字ブロック内方線の整備など、
保安度向上工事やサービス改善工事などに総額約87億円 ～

京阪電気鉄道株式会社（本社：大阪市中央区、社長：上田成之助）では、公共交通機関が果たすべき使命として、安全性、快適性のさらなる追求、バリアフリー化の促進などをめざし、毎年鉄道設備の投資を続けておりますが、このたび、平成21年度設備投資計画が決まりました。

平成21年度は、淀駅付近の立体交差化の推進、全駅・全ホーム（ケーブル線および京都市交通局管理の御陵駅を除く）へのホーム点字ブロック内方線の整備、新型ATIS導入に向けた調査、踏切・信号の更新、エレベーターの新設、トイレ改良などを実施することにしており、投資総額は約87億円となります。

概要は下記の通りです。

記

1. 踏切および運転保安工事（47億9千5百万円）

立体交差化工事

淀駅付近を中心に京阪本線約1.5kmを高架化する事業に今年度も引き続き取り組みます。下り線は今年9月に、上り線は平成23年に高架化予定です。高架化により3つの踏切道を廃止し、利便性向上、安全確保とともに、競馬開催日の混雑を解消します。

踏切道の立体化および踏切保安施設の新設・改良

踏切障害物検知装置の更新や、踏切道の構造改良、踏切自動遮断機の更新などを行います。

車両の改良など

運転状況記録装置や列車防護無線装置の新設などを行います。



淀駅付近高架化工事現場

線路の改良

橋梁改良、防災対策、道床改良、合成まくらぎ化などを行います。

電気設備の改良

平成28年度中の京阪線全線での多情報連続制御式ATSの稼働をめざし、その導入に向けた準備を進めます。また、信号関係機器更新、連動装置更新、ホーム異常通報装置の新設なども行います。

工場・検修設備の更新

寝屋川車両工場検修設備の更新などを行います。

その他

お客さまのお手伝いなどで係員が改札口不在時に、他駅の係員がインターフォンなどを活用して改札口で対応することを可能とする駅遠隔監視システムの導入などを行います。

2. サービス改善工事（27億6千4百万円）

駅施設の改良

駅の空調設備更新やホーム改良などを行います。

バリアフリー対策

エレベーターを5駅新設・1駅増設、エスカレーターを1駅新設・1駅更新、車いす対応トイレを5駅新設します。また、列車接近表示装置の整備なども行います。

その他

シートなどインテリアのグレードアップや車内案内表示器の搭載、車いすスペース設置などのバリアフリー対策を盛り込んだ8000系車両のリニューアルを行います。また、駅務機器の更新工事のほか、車両クーラー更新および暖房能力向上などにも取り組みます。



8000系車両（外観）



リニューアルイメージ（内装）

3. 輸送力増強工事（11億4千6百万円）

電気設備の新設・改良

変電所の建て替えや、変電所機器の更新などを行います。

以上